



いずみこども園
ホームページ
QRコード

令和6年10月31日
千代田区立いずみこども園
園長 穴原江美

【教育目標】 元気な子ども やさしい子ども ☆考える子ども

体を動かす楽しさを

園長 穴原江美

校庭や和泉公園の桜の葉が色づき始め、秋の涼しさが感じられるようになってきました。体を動かすのにも心地のよい季節です。

10月19日(土)には、運動会「いずみふれい(あい)スポーツ」を開催し、保護者や地域の方など多くの皆様にご参会いただきました。ありがとうございます。子どもたちの姿を見て成長を感じたり、日頃子どもたちが楽しんでいるかけっこやリズム表現などを、親子で触れ合いながら、一緒に楽しんだりしていただくことができたのではないかと思います。

また、アンケートへのご協力についても、ありがとうございます。いただいた感想をいくつか紹介させていただきます。

- ・初めての参加でしたが、終始楽しんでいるようでした。
- ・親子競技が多く、子どもが安心して参加できたと思います。
- ・家族みんなでダンスに参加できて、きょうだい、保護者も楽しかったです。
- ・子どもたちが、一生懸命ダンスやかけっこをする姿を見て感動しました。
- ・子どもの成長を感じることができて、とても嬉しかったです。
- ・大勢の場で固まっていたのですが、それも成長だと感じ、よい思い出ができました。
- ・友達のことも一生懸命応援する姿が、とても嬉しかったです。
- ・子どもの表情豊かなダンスを見て、昨年と見違えるほどの成長ぶりに涙してしまいました。
- ・動機付けや本番までの盛り上げ方も含めて、準備期間も楽しんでいたように思います。
- ・子どもたちの頑張りはもちろんですが、子どもたちと先生方の関係性が良いのだと感じました。

自由参加の0・1歳児も含めて多くの保護者の皆様から温かな言葉を寄せていただき、嬉しく思いました。一方、マイクの音量や時間配分など考慮すべきご意見もいただきましたので、次年度以降に活かしていきたいと思えます。

ところで、幼児期は、生涯にわたって必要な運動の基となる多様な動きを幅広く獲得する大切な時期です。文部科学省『幼児期運動指針』には、「多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れること」「楽しく体を動かす時間を確保すること」「発達の特性に応じた遊びを提供すること」の3つのポイントが示されています。

園の中では、子どもたちが自発的な遊びや生活の中で多様な体の動きを経験できるようにしたり、意図的な活動を通して体を動かす楽しさや運動への意欲を高めたりできるようにしています。

先日は、特色ある教育活動の取組の一つである「体力向上やスポーツライフにつながる活動」として、『バトンに親しむ』を実施しました。講師に「下馬 L.M.C バトンクラブ」の方をお招きし、バトン演技の鑑賞と5歳児のバトン体験を行いました。私も5歳児ゆり組の子どもたちと一緒に、バトン体験をしました。いくつかの動きを教えてもらい、最後は音楽に合わせてみんなで演技をします。

動きの中には、腕を回す・片足で立つ・腕と足を伸ばす・回るなど基本的な体の動きや、バトンを投げる・バトンを転がす・友達とバトンを投げて捕るなどのバトンを扱う動きが入っています。

バトンを投げて捕るためには、バトンの動きをイメージすることが大切です。友達と一緒にする動きは、相手と呼吸や気持ちを合わせる必要があります。難しいなと思う動きもありましたが、子どもたちは何度も繰り返し挑戦していました。

音楽に合わせて演技をし、最後にみんなでポーズを決めた時には「やったー！」と大喜び。

多様な動きを経験し、体を動かす楽しさを十分に感じたバトン体験でした。

